



川東小だより

第10号

令和4年2月15日

新発田市立

川東小学校

子どもたちの様子から

校長 岡崎 功一

「おはようございます。」毎朝、子どもたちの元気な声が、児童玄関に響きます。コロナ禍であっても、子どもたちは、いつものように元気に学校に登校してきます。先月、新型コロナウイルス感染予防のために2日間の休校措置を取らせていただきました。保護者の皆様には、ご心配ご不便をおかけしましたとともに休校措置についてご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

1月20～23日の休校後もしばらく感染症予防のため登校を控えた子どもたちが多くいました。そのような中において、子どもたちは、思いやりの気持ちを持ち、欠席している友達のことについてうわさをしたり意地悪な言葉がけをしたりすることなく過ごすことができました。そして、休んでいた友達が登校したときには、普段どおりに一緒に学習したり活動したりしていました。川東小の子どもたちは、心やさしい子どもたちだと改めて感じました。各ご家庭でも、今回の新型コロナウイルス感染状況について話題にされて、友達とのかかわりについて話し合われたものと思っております。重ねて感謝申し上げます。

このような状況ですので、感染拡大予防のために、計画していた様々な行事を中止にさせていただきました。一番心苦しかったのは、「そり遊び、スキー教室」についてです。子どもたちもとても楽しみにしていた行事でした。一度は延期で行う予定でしたが、今の状況では、安心安全に実施することは難しいと判断しました。このことについては、全校放送で、私から直接子どもたちに話をして謝りました。残念に思った子どもたちも多くいたようですが、しかたがないと思っている子どもたちもいました。また、外部講師を招いての授業を予定していた学年もありましたが、いくつか中止にしました。

このように予定していた行事が実施できない状況ですが、子どもたちは、コロナ禍とは思えないほど、いつもどおりに元気に学校生活を送っています。逆にその姿を見て勇気づけられる思いもがします。

この間、学校で一気に加速していったことがあります。それは、タブレット端末を使ってのオンライン授業です。多くの子どもたちが休んでいる中、学校では、「学びを止めない」という姿勢で取り組みました。休んでいる子どもたちに向けて、タブレット端末を通して授業の様子を届ける試みを行いました。これを進めるにあたっては、職員の同士が、お互いもっている知識を共有して協力しながら進めてまいりました。子どもたちが、授業でタブレット端末を使う機会も増えました。タブレット端末の使い方にも慣れ、その習熟の速さに感心させられる思いです。

まだ新型コロナウイルス感染の収束が見えない状況です。このような状況の中で、ピンチをチャンスに変えていけるような「たくましく生きていける子ども」を育てていきたいと思っております。